

P6

エチオピア手話のアスペクト標示

パウロス・アベベ
(アディスアベバ大学 [エチオピア])

要旨

アスペクトとは、ある事象の時間的構造や、その事象に対する話者の見方についての情報を担う文法システムである。手話言語のアスペクト標示体系は、あまり研究の進んでいない分野のひとつである。アメリカ手話やイギリス手話などの研究の進んでいる言語の研究結果からは、多様な結論が導かれている。たとえば、アメリカ手話とイギリス手話のアスペクト標示は形態論的に行われるとする研究がある (Kalima & Bellugi 1979; Metlay & Supalla 1995; Rathmann 2005; Sutton-Spence & Woll 1999など) が、それが単語の屈折であると言えるのかについては疑義がある (Bergman & Dahl 1994; Maroney 2004; Liddell 2003 ほか)。すなわち、単語の屈折と呼べるために満たすべき条件をこれらアスペクト標示は満たさないことから、むしろこれらアスペクト標示は単語の派生であるとか (Maroney 2004)、あるいは図示性の高い「表意的」な形態法であるとする (Bregman & Dahl 2004) 研究がある。そもそもこれらアスペクト標示は単語の屈折でも派生でもなく、ジェスチャーであるとする論もある (Gray 2010)。さらに、手話言語においてアスペクトの情報は動詞の屈折だけでなく独立した語彙的要素によっても担われていることも指摘されている (Janzen 2012; Johnston, Cresdee & Schembri 2011; Liddell 2003:37)。このような、手話単語にアスペクト標識を付加する様々な体系は、今なお議論の余地がある。今後、多様な手話言語を分析することで、手話言語におけるアスペクト標示の有りように関するさらなる情報が得られる可能性があり、そうなればこの問題に関する我々の理解が深まるだろう。本発表は、エチオピア国内で百万を超える使用者を擁するエチオピア手話を対象として、アスペクト標示体系を調査している博士論文研究の、現時点での成果のあらましである。